

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第84回

公社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業の現場から”。第84回は、半導体製造装置の製造技術を活用し医療・介護分野のものづくりに挑戦する、エーアンドエー株式会社（西多摩郡日の出町）をご紹介します。同社には、産産連携・産学連携支援事業（注1）や展示会等出展支援助成事業（注2）など、公社事業を幅広くご利用いただいています。

「受注生産からの転換!自社ブランドメーカーを目指して」

エーアンドエー株式会社

新たな分野への挑戦

西多摩郡日の出町の平井川沿いにある斬新な建物。赤地に白抜き「A and A Inc.」の文字が一際目を惹く。それが理化学機器等を設計製造するエーアンドエー株式会社の新社屋である。



平成21年に完成した新社屋

同社は会長の田澤信之氏が昭和48年に設立。創業以来、『品質はすべてに優先する』をモットーに、金属・樹脂・マグネシウム等の難素材の切削・精密切断、ユニット製品の組み立て・電気調整に至るまでの一貫生産を行っている。平成17年にはISO9001を取得。現在、主力製品である半導体製造装置のワイヤーボンダーは、部品加工・組立・電気調整と一貫性のあるユニット製品として取引先に納入している。

また、同社では徹底したコスト管理を実践している。たとえば、ガラス張りの管理部門の部屋を2階に、樹脂と金属それぞれの製造ラインを1階に置いた。これにより、管理部門から工場内の製造ライン全体を見渡せるようになり、効率的な人員配置、部品製造にかかる時間短縮等、生産効率の追求が可能となった。

田澤会長の手腕により創業から経営を続けていた同社は、2年前に田澤会長のご子息である直樹氏が事業を承継し、未来へ向けて、これまで培った経験を活かして新たな分野へと舟を漕ぎ出たところである。

生き残りを賭けた新分野の開拓

国内の半導体製造が低迷する中、明確なビジョンが見えていた訳ではないが、田澤社長は「日本で生き残るためには、

何としても新分野の開拓を急がねば」と危機感を募らせていた。かねてより「単に受注生産を続ける限り、会社の存続は厳しい」と実感していた社長は、改めて「自社ブランドの製品を作りたい」との思いを強くした。

新たな展開に向け、多くの展示会へ足を運び、社会・消費者ニーズ等の情報収集に努めた。そして着目したのが「医療・介護」「環境」「美容・健康」の3分野である。特に「医療・介護」分野に関して、多摩地域において近年介護施設が急増していること、社内でも介護の問題に直面している従業員が増えていること等から、高齢化社会に対応したものづくりへの挑戦を決意した。

医療・介護分野への進出

最初に開発した製品は、平成22年に完成した電動式患者移載ストレッチャー「パステム」。本製品はスライド板とベルトを巧みに制御し滑らかに動かすことで、手術後の患者にダメージを与えず、少人数でオベ台から病室に移載、搬送するストレッチャーである。試作の段階から医療、介護の現場へ持ち込み、幾度ものデモンストレーションにより現場の意見、課題、要望を参考に改良を重ねて完成した。導入先の病院では、コンパクトで取り扱いやすく、かつ安全性の高い製品として高く評価されている。



移動式患者移載ストレッチャー「パステム」

本製品は関東経済産業局長賞、多摩ブルー・グリーン賞の優秀賞を受賞。さらに「HOSPEX Japan」「国際福祉機器展」等数多くの展示会へ出展し、来場者の反応に確かな手応えを感じている。

現在は一人でも患者の移載が出来るようにと「音声認識

システム]を導入した製品やタッチパネルで操作可能なシステムも開発中である。

産学連携による製品開発

「バステム」のほか、同社では大学との連携により医療分野の製品開発を進めている。

中小企業と大学との連携を上手く進めるには、当事者間の信頼関係が重要である。同社は、「設計から製造までを全て自社で行える」強みと、自社にはない「実証試験が出来る研究部門」の必要性を認識の上、開発ロードマップを描き、各大学へ製品開発のイメージを明確に伝えるようにしている。



安全装置付き室内移動用椅子

同社は大学の持つ技術シーズを高く評価しており、それらを活用し自社の持つ技術・開発力により、「アイデアをカタチにしたい」と意気込む。積極的に大学へアプローチし、情報交換・連携を図ることにより共同開発へと繋げている。

そのひとつとして、公社多摩支社主催の産学連携研究会をきっかけに、明星大学との共同開発がスタートした「安全装置付き室内移動用椅子」がある。

椅子の足について車輪により水平移動が可能だが、腰をかける際には車輪にロックがかかるので、安全に着座できる点の特徴である。

本開発にあたっては、知財戦略について知的財産総合センターを利用しているほか、中小企業育英資金を活用し、早期の製品化を目指している。

このほかにも、東洋大学、順天堂大学との連携で小学生に多いと言われる脊髄側弯症の測定装置、在宅用電動車椅子を開発中である。

自社での販売体制確立に向けて

同社の今後の展望は「自社製品の販売体制の確立」である。しかし、これまで製造中心であった同社には販売に関するノウハウが不足している。また、数年前までは隙間産業と呼ばれていた「医療・介護分野」にも、ここ3年ほどの間に大手企業が参入するようになった。同社は、大手が参入できない隙間を探し、製品を開発するための第一歩として、昨年7月に医療機器製造業許可を、今年5月には医療機器製造販売業許可を取得した。

また、販売方法についても試行錯誤を重ねながらノウハウの蓄積に努めているところである。現在はまだほとんどの開発製品を商社経由で販売しているが、近い将来には販売のターゲットを明確にし、マーケティングを意識した販売体制を構築したいという。

今後は公社のニューマーケット開拓支援事業(注3)、海外販路開拓支援事業(注4)等を利用しながら、着実な販路開

拓・拡大を目指す。

<探究して 行動せよ>

エーアンドエー(A and A)とは、アドベンチャー&アクティブが由来で『探究して行動せよ』を信念としている。これを自ら実践する父親の田澤会長、ご子息の田澤社長の決断力、企画力、人脈の広さには驚くばかりで、今も開発したい製品のアイデアが次々と浮かぶという。意外な事に、二人とも「本来はものづくりが好きではなかった」と口を揃える。だが「人に役立つ製品を世に送り出したい」、「新しい価値を生み出して社会に貢献したい」という熱い思いは人一倍。現場ではこの“夢と熱意”を胸に陣頭指揮を執る。これまでも様々な創意工夫を重ね、技術・製品開発に取り組んできた同社。これからも、世の中の役に立つ製品、人に喜ばれる製品が数多く誕生するのを心待ちにしている。



田澤直樹社長

(多摩支社 小宮奈緒美)

- (注1)産学連携・産学連携支援事業
大手メーカー・研究機関や大学と連携した共同研究、共同開発をサポートする事業。コーディネータによる継続的な支援も行う。
- (注2)展示会等出展支援助成事業
中小企業が行う展示会出展などの販路開拓への取り組みに対し、経費の一部を助成する事業。
- (注3)ニューマーケット開拓支援事業
ビジネスナビゲータが製品・技術を商社やメーカー等へ紹介し、国内販路開拓を進める事業。
- (注4)海外販路開拓支援事業
海外販路ナビゲータによるハンズオン支援で、海外市場開拓を支援する事業。

企業名：エーアンドエー株式会社
 代表者：田澤直樹(敬称略)
 資本金：2,000万円 従業員数：45名
 本社所在地：東京都西多摩郡日の出町平井15-8
 TEL：042-588-7966
 FAX：042-588-7977
 URL：http://www.a-and-a.co.jp